

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題 1

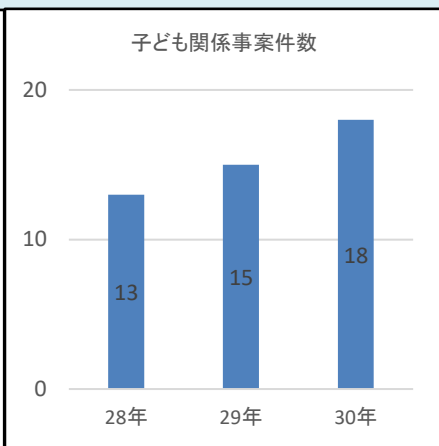
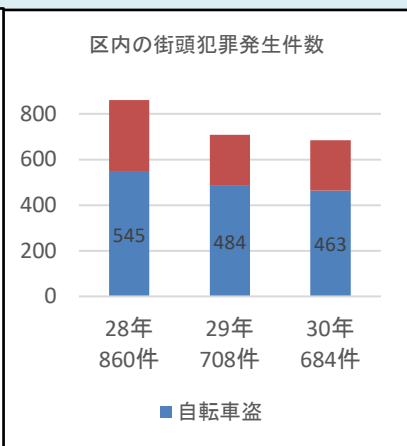
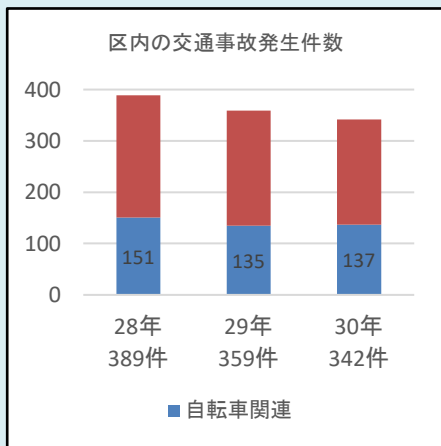
【誰もが安全・安心して暮らせるまち】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

地域団体、関係機関などと連携し、災害や犯罪・事故など区民の生活に影響を与えるさまざまなリスクに対処する仕組みをつくり、総合的な危機管理機能を拡充します。

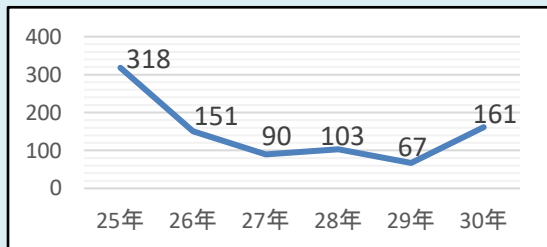
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・区域が上町台地上にあり、上町断層のずれによる都市直下型地震が発生すると甚大な被害が発生するおそれがあります。  
上町断層帯地震による被害想定(阿倍野区)  
震度:6強～6弱、死者:157人 建物全半壊:12,389棟、避難者総数:12,185人
- ・南海トラフ巨大地震は、30年以内に高い確率で発生が想定されています。  
南海トラフ巨大地震発生確率30年以内に70～80%  
震度:6弱、死者:8人 建物全半壊:4,581棟、避難者総数:16,992人
- ・災害時に備えて、「自助(自身、家族)」、「共助(近所、地域)」による備えができていると感じる区民の割合:42.5%【29年度】、43.1%【30年度】

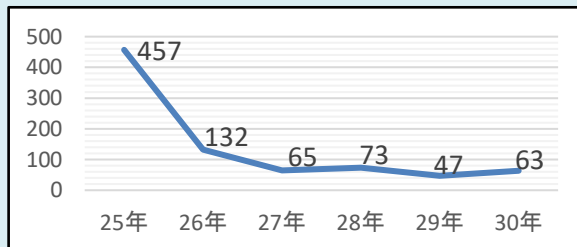


計画

Osaka Metro昭和町駅(文の里駅含む)、西田辺駅周辺の放置自転車台数(毎年2月)



近鉄阿部野橋駅、JR天王寺駅、Osaka Metro天王寺駅、Osaka Metro阿倍野駅周辺の放置自転車台数(毎年2月)



要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・上町断層帯地震や南海トラフ巨大地震発災による被害想定は甚大なものであり、行政の「公助」だけでは限界があることから、自主防災組織主導での迅速な対応が必要になります。このことから平常時より「自助」「共助」による日ごろの備えなど、地域防災力向上につながる啓発や活動が不可欠であると考えます。
- ・地域の自主防災組織は一定構築されていますが、さらなる活動内容充実や組織力の向上が必要です。
- ・街頭犯罪発生件数は近年減少傾向にありますが、割合としては依然自転車盗が大部分を占めています。
- ・子ども関係事案件数は平成28年以降微増傾向にあり、引き続き子どもの防犯意識を高める必要があります。
- ・区内の交通事故のうち自転車関連事故の占める割合が自動車事故に次いで多い状況となっています。
- ・区内の主な駅周辺の放置自転車台数について、この数年で大幅に減少していたものの、29年から30年にかけては、再び増加傾向に転じています。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・災害被害を最小限にとどめるためには、地域住民による「自助」「共助」が不可欠であるため、地域住民に対する防災に対する意識啓発や、災害に対する知識やスキルの習得および向上を図る必要があります。
- ・地域の自主防災組織は一定構築されていますが、さらなる活動内容の充実や組織力の向上を図る必要があります。
- ・災害時の避難場所の認知の向上を図る必要があります。
- ・自主防災組織の新たな担い手となる中学生等の若年者層への意識啓発や、災害に関する知識やスキルの習得および向上が重要です。
- ・避難行動要支援者においては、「自助」による防災対策に限界があるため、「共助」を促進するために行政が支援する必要があります。
- ・街頭犯罪発生件数を減らすため、特に自転車盗に対する啓発などの取組みを強化し、区民の防犯意識を高める必要があります。
- ・子どもへの犯罪を未然に防止するため、周囲に対する見守りの啓発とともに、子ども自身の防犯意識を高めるような啓発などの取組みを強化する必要があります。
- ・自転車関連事故を減少させるため、自転車運転マナーを向上させる取組みを推進する必要があります。
- ・放置自転車台数の減少に向けて、自転車利用者に対する啓発などの取組みを推進する必要があります。

自己評価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に備えて地域住民に対し、災害に対する知識やスキルの習得および向上を図るための啓発をはじめ、中学生等の若年者層への意識啓発や災害に関する知識やスキルの習得の推進を図りました。</li> <li>また、平成30年度に作成した避難所開設運営マニュアルを活用した実践的な訓練を地域の自主防災組織が行い、さらなる活動内容の充実や組織力の向上を図りました。</li> <li>各取組みを継続的に実施することにより「災害に強い」まちづくりに寄与できたと考えます。</li> <li>・街頭犯罪発生件数を減少させるために、特に自転車盗に対する啓発などの取組みが必要であり、警察及び地域と連携した啓発等に継続して取り組みます。</li> <li>・交通安全運動期間を中心とした啓発活動、学校園での交通安全教室の開催等は、自転車運転マナーの向上に向けた取組みとして有効であり、継続して取組みを進めます。</li> <li>・継続的に実施している地域住民と協働した啓発活動等の取組みにより、放置自転車台数の抑制に寄与できたものと考えます。</li> </ul>

めざす成果及び戦略 1-1 【災害に強く、誰もが安心して住める安全・安心のまち】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>	地域住民の「自助」「共助」による災害に対する備えができている状態			戦略（中期的な取組の方向性）
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	災害に対して「自助」「共助」による備えができていると感じる区民の割合：2年度までに60%以上			区民一人ひとりの防災意識を広く高め、地域の自主防災活動を支援し、「災害に強い」まちづくりを図ります。
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	イ	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 具体的な取組みを確実にしていますが、特に若年者層へのアプローチが進んでいません。
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
	災害に対して「自助」「共助」による備えができていると感じる区民の割合：38.3%		43.10%	B	B
	A：順調 B：順調でない				今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 区民のみなさんが入手しやすい手段で情報収集できるよう、年齢層にあわせた啓発方法で啓発を行います。
戦略の進捗状況	a	a：順調 b：順調でない			

29決算額 3,813千円 30予算額 7,193千円 元予算額 5,521千円

計画	<p><b>当年度の取組内容</b></p> <p>○災害に備え、日頃の備えや「自助(自身、家族)」、「共助(近所、地域)」の大切さ、「各地区防災計画」や、災害時の避難場所(一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)など区民一人ひとりの災害に対する知識やスキルの習得及び防災力のさらなる向上を図ります。</p> <p>・区のホームページや区広報紙等で周知:年2回以上</p> <p>・まちなか防災訓練・防災研修会・防災関係会議参加者への啓発:10,000人以上</p> <p>○地域の災害時対応のスキルの向上や地域コミュニティの醸成を図ります。</p> <p>・避難所開設運営マニュアルを活用した実践的な避難所開設・運営訓練を実施:全10地域</p> <p>・地域の自主防災組織が実施する「まちなか防災訓練」等の地域の取組みを支援:全10地域</p> <p>・複数地域や他区の地域と連携・協働で行われる防災の取組みを支援</p> <p>・災害時に防災活動の中核となる地域防災リーダーの防災活動に必要な訓練や研修の実施:参加者延べ500人</p> <p>○日中の災害を想定し、中学生等の若年者層への意識啓発や災害に関する知識やスキルの習得を推進します。</p> <p>・区内の小・中学校で防災教育等(防災研修および訓練)を実施:10校以上</p> <p>・防災ジュニアリーダー制度を安定的、継続的に存続し、自主防災組織の新たな担い手となる人材の発掘を行うとともに、災害活動に必要な訓練や研修の実施:登録者数:25名以上、参加者数:延べ50人</p>	<p><b>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</b></p> <p>・災害時の避難場所を知っている区民の割合:60%以上</p> <p>・避難開設運営訓練により役割等が理解できた避難所開設運営役員の割合:70%以上</p> <p>・地域防災リーダー訓練により災害時に役立つスキルが身についた地域防災リーダーの割合:70%以上</p> <p>・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する日ごろの備えが必要だ」と思った割合:80%以上</p> <p><b>【撤退・再構築基準】</b></p> <p>・災害時の避難場所を知っている区民の割合:40%以下</p> <p>・避難開設運営訓練により役割等が理解できた避難所開設運営役員の割合:50%以下</p> <p>・地域防災リーダー訓練により災害時に役立つスキルが身についた地域防災リーダーの割合:50%以下</p> <p>・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する日ごろの備えが必要だ」と思った割合:60%以下</p> <p>であれば事業を再構築します。</p>
	<p><b>前年度までの実績</b></p> <p>30年度実績【29年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災リーダー訓練:延べ390名【延べ363名(全地域)】</li> <li>・地域防災リーダー新任研修:52名(全地域)【25名(全地域)】</li> <li>・まちなか防災訓練・避難所開設運営訓練:10地域実施【10地域実施】</li> <li>・中学校防災訓練:5校実施【5校実施】</li> <li>・中学生防災研修:5校実施【5校実施】</li> <li>・小学校防災訓練・研修:7校実施【10校実施】</li> <li>・出前講座等申請による高等学校・専門学校・日本語学校への防災研修:11回実施【3回実施】</li> </ul> <p>&lt;プロセス指標&gt;</p> <p>30年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の避難場所(地域で決められた一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)を知っている区民の割合:80.9%</li> <li>・地域防災リーダーの業務にやりがいや責任を感じる割合:100%</li> <li>・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する日ごろの備えが必要だ」と思った割合:99.4%</li> <li>・防災訓練に参加した区民のうち「今後の備えの参考になった」と思う割合:98%</li> </ul>	
	<p><b>プロセス指標の達成状況</b></p> <p>① (i)</p> <p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p><b>課題と改善策</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>

中間振り返り	<p><b>戦略に対する取組の有効性</b></p> <p>—</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>	<p><b>課題と改善策</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
--------	---	---

自己評価	<p><b>当年度の取組実績</b></p> <p>・区のホームページや区広報紙等で周知:年46回</p> <p>・まちなか防災訓練・防災研修会・防災関係会議参加者への啓発:9,104人[新型コロナウイルス感染症の影響により中止4回]</p> <p>・避難所開設運営マニュアルを活用した実践的な避難所開設・運営訓練を実施:4地域[新型コロナウイルス感染症の影響により中止6地域]</p> <p>・地域の自主防災組織が実施する「まちなか防災訓練」等の地域の取組みを支援:8地域[新型コロナウイルス感染症の影響により中止2地域]</p> <p>・複数地域や他区の地域と連携・協働で行われる防災の取組みを支援:5地域</p> <p>・災害時に防災活動の中核となる地域防災リーダーの防災活動に必要な訓練や研修の実施:参加者延べ161人</p> <p>・区内の小・中学校で防災教育等(防災研修および訓練)を実施:12校[新型コロナウイルス感染症の影響により中止1校]</p> <p>・防災ジュニアリーダー制度を安定的、継続的に存続し、自主防災組織の新たな担い手となる人材の発掘を行うとともに、災害活動に必要な訓練や研修の実施:登録者数:37人、参加者数:12人</p>	<p><b>課題</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>災害に備え、日頃の備えや「自助(自身、家族)」、「共助(近所、地域)」の大切さ、災害時の避難場所(一時集合場所、一時避難場所、災害時避難所等)などまちなか防災訓練等で啓発を進めているが、若年者層の参加が少ない傾向にあります。</p>
	<p><b>プロセス指標の達成状況</b></p> <p>・災害時の避難場所を知っている区民の割合:80.3%</p> <p>・避難開設運営訓練により役割等が理解できた避難所開設運営役員の割合:91.4%</p> <p>・地域防災リーダー訓練により災害時に役立つスキルが身についた地域防災リーダーの割合:100%</p> <p>・防災教育を受けた生徒のうち、「地震に対する日ごろの備えが必要だ」と思った割合:99.5%</p> <p>① (i)</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p><b>改善策</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>地域と連携して、若年者層が入手しやすい方法で情報発信を行うなど若年者層の参加促進を進めます。</p>
	<p><b>戦略に対する取組の有効性</b></p> <p>ア</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

めざす成果及び戦略 1-2 【犯罪や交通事故を防止し、誰もが安心して住める安全・安心のまち】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 区民が区内の安全性が高まったと感じられる状態	戦略（中期的な取組の方向性） 地域や警察等関係機関と連携し、区民の安全を守る取組みを進めます。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 区役所が警察等と連携して行う防犯・交通安全の各種取組みを総合的にみて、街頭犯罪抑止や交通事故防止に役立っていると感じる区民の割合：2年度までに60%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
	区役所が警察等と連携して行う防犯・交通安全の各種取組みを総合的にみて、街頭犯罪抑止や交通事故防止に役立っていると感じる区民の割合 74.3%	70.1% A A	—
	今後の対応方向	A:順調 B:順調でない	※有効性が「イ」の場合は必須
戦略の進捗状況	a a:順調 b:順調でない		—

具体的取組 1-2-1 【安全なまちづくり推進事業】

29決算額 1,044千円 30予算額 1,269千円 元予算額 2,067千円

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車用ひたくり防止カバーの取付及び自転車盗難防止ワイヤー錠の配付を行う防犯キャンペーン活動（年12回）、ナンバープレート盗難防止ネジ取付キャンペーン活動（年2回）を実施します。</li> <li>○区内市立小学校（10校）の新1年生全員に防犯ブザーを配付します。</li> <li>○区役所「地域みまもり隊」職員により、通学路巡回・防犯パトロールを行います。：平日毎日</li> <li>○警察と連携して防犯カメラを設置（公設置・地域管理）します。</li> <li>○イベント等において「こども110番の家」の啓発及び協力家庭等の募集を行います。：年3回以上</li> <li>○「こども110番の家」の子ども自身への周知啓発の取組として、小学校入学説明会等での子ども向け啓発チラシを配付します。：年10回</li> </ul>	区役所が警察等と連携して行う防犯啓発活動等の取組みが、区内の街頭犯罪抑止に役立っていると感じる区民の割合60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。  前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・区民との協働による自転車盗対策を中心とした防犯啓発活動：16回【17回】 ・ナンバープレート盗難防止ネジ取付活動の実施：3回【2回】 ・区内市立小学校新1年生へ防犯ブザー配付【新1年生へ防犯ブザー配付】 ・下校時の通学路巡回〔区内市立小学校（10校）区内幼稚園・保育園・保育所（27か所）〕：平日毎日【平日毎日】 ・青色防犯パトロール車による巡視〔区内全域〕：平日毎日【平日毎日】 ・イベント等における「こども110番の家」の啓発及び協力家庭等募集：6回【3回】 ・小学校入学説明会等での「こども110番の家」の子ども向け啓発チラシの配付の実施：10回【10回】 <プロセス指標> 区役所が警察等と連携して行う防犯啓発活動等の取組みが、区内の街頭犯罪抑止に役立っていると感じる区民の割合 平成30年度：84.2% 平成29年度：77.9%、平成28年度63.5%

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車用ひたくり防止カバー取付及びワイヤー錠配付を行う防犯キャンペーン活動【15回】【新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回】</li> <li>・ナンバープレート盗難防止ネジ取付活動の実施【4回】</li> <li>・企業と連携した区内小学校新1年生への防犯ブザー配付(4月)</li> <li>・区役所「地域みまもり隊」職員による通学路巡回・防犯パトロール（平日毎日）</li> <li>・防犯カメラ（公設置・地域管理）を設置(5台)</li> <li>・イベントで「こども110番の家」の啓発及び協力家庭等募集【3回】</li> <li>・「こども110番の家」子ども向け啓発チラシを入学説明会で配付【10回】</li> </ul>	—	
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	区役所が警察等と連携して行う防犯啓発活動等の取組みが、区内の街頭犯罪抑止に役立っていると感じる区民の割合 86.6%	① (i)	
	①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定(未測定)



具体的取組1-2-2 【交通安全運動の推進事業】

29決算額 1,466千円 30予算額 1,730千円 元予算額 950千円

計画	当年度の取組内容 ○全国交通安全運動期間に「交通事故をなくす運動」阿倍野区推進本部による推進大会(街頭啓発等)を実施します。:春秋2回 ○阿倍野区身体障害者団体協議会との街頭啓発活動を実施します。:年2回 ○幼稚園児等を対象とした交通安全教室(年12回以上)、小学校児童を対象とした交通安全教室(年10回)を実施します。 ○地域住民および学校園を対象に交通安全出前講座を実施します。:年10回	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) 区役所が警察等と連携して実施する交通安全教育等の取組により、区民の交通ルール・マナーに関する意識及び理解が向上したと感じる区民の割合60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。
	前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・全国交通安全運動期間における推進大会(街頭啓発等)の実施:2回【2回】 ・阿倍野区身体障害者団体協議会との街頭啓発活動の実施:2回【2回】 ・小学校児童を対象とした交通安全教室の実施:11回【12回】 ・幼稚園児等を対象とした交通安全教室の実施:23回【21回】 <プロセス指標> 区役所が警察等と連携して実施する交通安全教育等の取組により、区民の交通ルール・マナーに関する意識及び理解が向上したと感じる区民の割合 平成30年度81.9% 平成29年度80.9%、平成28年度61.7%	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	—
	戦略に対する取組の有効性 —	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績 ・「交通事故をなくす運動」阿倍野区推進本部による推進大会【2回】 ・阿倍野区身体障害者団体協議会と協働した街頭啓発活動【2回】 ・幼稚園児等を対象とした交通安全教室【24回】 ・小学校児童を対象とした交通安全教室【10回】 ・広く区民を対象とした交通安全行事【1回】	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況 区役所が警察等と連携して実施する交通安全教育等の取組により、区民の交通ルール・マナーに関する意識及び理解が向上したと感じる区民の割合 88.2%	① (i) 改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	—
	戦略に対する取組の有効性 ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組1-2-3

【市民協働型自転車利用適正化事業】

29決算額 123千円 30予算額 441千円 元予算額 271千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <p>○区内主要駅周辺で地域及び関係機関との啓発活動等を実施します。                  ・JR寺田町駅周辺における3区合同啓発活動の実施(年8回)、及びゆめまちロードOSAKA寺田町啓発活動の実施(年2回)                  ・近鉄大阪阿部野橋駅・JR天王寺駅・Osaka Metro天王寺駅周辺におけるゆめまちロードOSAKAあべの官民協働会議の開催(年3回)及び啓発活動の実施(年3回)                  ・Osaka Metro昭和町駅(文の里駅含む)・西田辺駅周辺における啓発活動の実施(年12回)及び検討委員会の開催(年2回)                  ・Osaka Metro阿倍野駅周辺における啓発活動の実施(年12回)</p>	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>区内の駅周辺(放置自転車禁止区域内)における駐輪場の場所を知っている区民の割合80%以上                  【撤退・再構築基準】                  上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>30年度実績【29年度実績】                  ・JR寺田町駅周辺における3区合同啓発活動の実施:4回【7回】、及びゆめまちロードOSAKA寺田町啓発活動の実施:2回【2回】                  ・近鉄大阪阿部野橋駅・JR天王寺駅・Osaka Metro天王寺駅周辺におけるゆめまちロードOSAKAあべの官民協働会議の開催:3回【3回】、及び啓発活動の実施:3回【3回】                  ・Osaka Metro昭和町駅(文の里駅含む)・西田辺駅周辺における啓発活動の実施:昭和町9回【11回】、西田辺10回【11回】、及び検討委員会の開催:2回【2回】                  ・Osaka Metro阿倍野駅周辺における啓発活動の実施:10回【11回】</p> <p>&lt;プロセス指標&gt;                  区内の駅周辺(放置自転車禁止区域内)における駐輪場の場所を知っている区民の割合 平成30年度83.5%、平成29年度82.1%、平成28年度80.6%</p>
----	---	--

中間 評価	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>① (i)</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない                  ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない                  ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>—</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進                  イ: 有効でないため、取組を見直す                  ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

年度 評価	<p>当年度の取組実績</p> <p>・JR寺田町駅周辺における3区合同啓発活動の実施【7回】〔雨天中止1回、新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回〕、及びゆめまちロードOSAKA寺田町啓発活動の実施【2回】                  ・近鉄大阪阿部野橋駅・JR天王寺駅・Osaka Metro天王寺駅周辺におけるゆめまちロードOSAKAあべの官民協働会議の開催【3回】及び啓発活動の実施【2回】〔新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回〕                  ・Osaka Metro昭和町駅(文の里駅含む)・西田辺駅周辺における啓発活動の実施【昭和町・文の里駅10回】〔雨天中止2回、新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回〕【西田辺駅11回】〔雨天中止1回、新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回〕及び検討委員会の開催【2回】                  ・Osaka Metro阿倍野駅周辺における啓発活動の実施【8回】〔雨天中止3回、新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回〕</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>区内の駅周辺(放置自転車禁止区域内)における駐輪場の場所を知っている区民の割合 82.4%</p> <p>① (i)</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進                  イ: 有効でないため、取組を見直す                  ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

## 重点的に取り組む主な経営課題

### 経営課題2

【高い教育力を持ち、子ども・青少年を健やかに育むまち】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

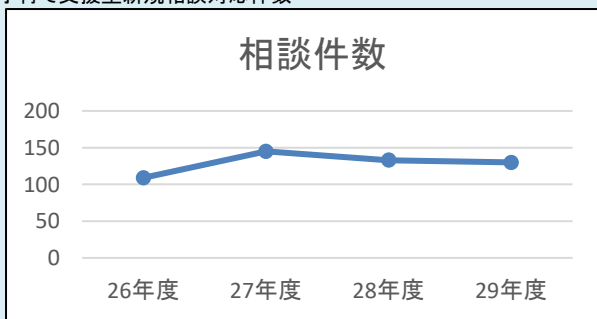
みんなが誇れる教育トップのまちづくり・子育てしやすいまちづくりをめざし、保護者・地域・学校園が連携し、子ども・青少年を健やかに育む取組みを支援します。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・区総体として、学力については全国平均以上の力があり、体力については全国平均をと同程度です。
- ・学力、体力の向上に加えて、国際理解教育やICTの活用など、それぞれの学校で特色ある学校づくりを進めています。
- ・＜子どもの生活に関する実態調査報告書（阿倍野区版）：平成28年度調査：出典＞（中学2年生の回答）  
「困窮度別に見た、学習理解度」について、学校の勉強が『あまりわからない・ほとんどわからない・わからない』と回答した割合：中央値以上：15.4%、困窮度Ⅰ：31.3%※  
「授業時間以外の1日あたりの勉強時間」について、『30分より少ない・まったくしない』と回答した割合：中央値以上：18.2%、困窮度Ⅰ：33.7%  
「自分の体や気持ちで気になること」について、『①やる気が起きない』『②不安な気持ちになる』『③眠れない』と回答した割合：困窮度Ⅰ：①区37.3%【市33.6%】、②区25.3%【市23.2%】、③区13.3%【市11.7%】

区分	基準
中央値以上	等価可処分所得中央値（本調査では238万円）以上
困窮度Ⅲ	等価可処分所得中央値未満で、中央値の60%以上
困窮度Ⅱ	等価可処分所得中央値の50%以上60%未満
困窮度Ⅰ	等価可処分所得中央値の50%未満

- ・都市化や少子高齢化・核家族化が進むなか、区内の3歳児未満乳幼児（約2,800人）のうち、約7割が家庭内育児と推定されます。
- ・子育て支援室新規相談対応件数



- ・子ども・青少年を取り巻く環境が大きく変化しているが、子育てが地域の人等に支えられていると感じる保護者の割合が6割を超えています。（出典：大阪市子ども・子育て支援に関するニーズ調査 平成25年度）

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・全体の底上げというよりも、学校ごとに対応する適切な支援が必要です。
- ・阿倍野区全体の相対的貧困率は、大阪市24区に比して高い割合にはないものの、他区同様、中央値以上と困窮度Ⅰの生徒では、学習理解度・学習意欲に大きな開きが生じており、困窮度が高まるにつれ、学習理解度・意欲が低くなる傾向にあると言えます。また、貧困世帯の子どもたちにかかるストレス等も大きく出ていると考えられます。
- ・核家族化やライフスタイルの多様化により、地域とのつながりや交流の機会が減少傾向にあります。
- ・家庭内で子育てを行う保護者の子育て相談や、発達が気になる子を持つ保護者が、相談を行うため専門相談のカウンセリング件数が増えています。
- ・子ども・青少年の健やかな成長を支えるために、地域の諸活動が不可欠であると考えます。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・大阪市トップクラスの教育環境を維持するとともに、さらに全市のモデルとなることをめざすため、近年急速に進んでいるグローバル化の中で未来の日本を支える現役・次世代への支援（グローバル人材の育成）を行う一方、地域とのつながりのある学校教育を展開することが重要と考えます。
- ・困窮度が高まるにつれ、学習理解度・意欲が低くなる傾向にあるため、貧困世帯等の中学生にターゲットを絞り込み、当区が抱えることものの貧困問題の解決を図っていく必要があります。
- ・子どもの生命・身体の安全が損なわれたり、孤立したりすることのないよう、子どもたちを健やかに育み、地域全体で教育に取り組むことが大切です。安心して教育を受けることのできる、セーフティネットの構築が課題となっています。
- ・家庭内で子育てを行う保護者の社会からの孤立を防止し、子育てによるストレスを軽減する必要があります。
- ・子ども・青少年の健全な育成を図るための諸活動に対して支援を進める必要があります。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- ・大阪市トップクラスの教育環境を維持するとともに、さらに全市のモデルとなることをめざすため、グローバル人材育成支援事業を実施し、多くの児童の英語に対する興味関心が高まりました。また、学校現場で地域人材等を活用する一助となる学校支援ボランティア人材募集事業や教員サポート講習会を実施し、一定の成果を得ました。
- ・子どもの生命・身体の安全が損なわれたり、孤立したりすることのないよう、不登校児などの相談支援事業に取り組んだ結果、相談者の多くが不安感・負担感の軽減が図られました。
- ・青少年指導員や青少年福祉委員による青少年の健全な育成を図るための諸活動を支援することにより、継続的な青少年の非行防止が図られていると考えます。

めざす成果及び戦略 2-1 【全市のモデルとなるような学校教育の推進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	学校の特色づくりが推進され、子どものチャレンジがサポートされていると保護者が感じている状態		保護者、地域等と連携して、小中学校の蓄積・特色を活かしながら、さらなる学力、体力向上をめざした全市のモデルとなるような学校の特色づくりと、すべての子どもがそれぞれの夢を実現するために、たくましくチャレンジすることをサポートします。幼児期等からの早期の家庭教育支援に取り組み、子どもの自尊感情を高め、学力・人間性・健康のバランスに留意し、人とつながる力をつけられる教育をサポートします。	
計画	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	特色ある学校の取組が行われていると感じる保護者の割合：2年度までに60%以上 子どものチャレンジがサポートされていると感じる保護者の割合：2年度までに60%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別
	特色ある学校の取組が行われていると感じる保護者の割合 81%	81%	A	A
	子どものチャレンジがサポートされていると感じる保護者の割合 77%	80%	A	A
		A:順調 B:順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
戦略の進捗状況	b	a:順調 b:順調でない	-	

具体的取組2-1-1 【グローバル人材育成支援事業】

29決算額 4,111千円 30予算額 4,246千円 元予算額 4,246千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	<p>○ネイティブスピーカーとのふれあいにより、授業では体験の少ない英語に触れる場を提供することにより、語学力の向上及び異文化への理解を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生を対象とした区役所等における英語コミュニケーションスペースの開設：6回程度</li> <li>小学生を対象とした英語講座等の開催：全10小学校</li> <li>区内在住の小学中中学生を対象とした英語スピーチコンテスト等の開催：2回</li> </ul>		<p>「英語に対する子どものチャレンジがサポートされていると感じる、事業に参加した児童・生徒の保護者の割合60%以上」 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・英語コミュニケーションスペースの開設：6回【6回】 ・小学生を対象とした英語講座等の開催：10小学校19回【9小学校10回】 ・英語スピーチコンテストの開催：1回【1回】</p>	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	—	-	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語コミュニケーションスペースの開設：6回</li> <li>小学生を対象とした英語講座等の実施：22回</li> <li>中学生英語スピーチコンテストの開催：1回</li> <li>小学生英語発表会の開催：1回</li> </ul>		-	
自己評価	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<p>「英語に対する子どものチャレンジがサポートされていると感じる、事業に参加した児童・生徒の保護者の割合95.7%」</p> <p>① (i)</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成</p>		-	
	戦略に対する取組の有効性	ア	-	



具体的取組2-1-2

【学校園支援(学校支援ボランティア人材募集、教員サポート講習会等)】

29決算額 442千円 30予算額 709千円 元予算額 570千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	○区教育行政連絡会等でくみ取った意見を受け、学校支援などを行うボランティアの募集を行い、各学校へ紹介する学校支援ボランティア人材募集事業を実施します。 ○各教員が自校園の課題解決に主体的に取り組むことを支援するため、学校ごとの個別・地域課題に応じてテーマを決定したうえで、講習会を開催し、外部の専門家等を講師に招いて技術・知識の習得等を行います。	・特色ある学校の取組みを進めていくうえで、学校支援ボランティア人材募集が役立っていると回答する学校の割合:80%以上 ・特色ある学校の取組みを進めていくうえで、教員サポート講習会が各校の個別・地域課題の解決に役立っていると回答する学校の割合:80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。
		前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 学校支援ボランティア人材募集(70人)、教員サポート講習会(14回開催)【学校支援ボランティア人材募集(55人)、教員サポート講習会(16回開催)】

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	・9小学校、3中学校から計39の人材募集のエントリーがあり、広報掲示板やホームページ等で周知募集を行った。 ・計63名が人材バンクに登録し、その都度学校へ紹介を行っている。学校との面接を経て、ボランティア従事が決まった登録者は延べ15名。 ・教員サポート講習会を8校10回開催した。[新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回]	—	
	プロセス指標の達成状況 特色ある学校の取組みを進めていくうえで、学校支援ボランティア人材募集が役立っていると回答する学校の割合 93.3% 特色ある学校の取組みを進めていくうえで、教員サポート講習会が各校の個別・地域課題の解決に役立っていると回答する学校の割合 100%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組2-1-3

【阿倍野区教育会議、阿倍野区教育行政連絡会の運営】

29決算額 471千円 30予算額 398千円 元予算額 495千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	○分権型教育行政を効果的に推進するに際し、分権型教育行政の理解促進に向けた取組等を進めながら、学校園・教育コミュニティの状況と進捗をモニタリングし、その状況に応じて学校園の教育活動をサポートするため、阿倍野区教育会議及び阿倍野区教育行政連絡会を開催します。 ・阿倍野区教育会議及び学校見学の場での意見交換会の開催:年8回以上 ・阿倍野区教育行政連絡会の開催:年20回程度(小学校の部10回、中学校の部10回)	・学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校長の割合:40%以上 ・学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる阿倍野区教育会議委員の割合:40%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が達成できなければ、会議運営手法を再構築します。
		前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・阿倍野区教育会議及び学校見学の場での意見交換会:9回開催【11回開催】 ・阿倍野区教育行政連絡会:12回開催(小学校の部5回、中学校の部7回)【20回開催(小学校の部11回、中学校の部9回)】

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	区教育会議及び学校現場での意見交換等:11回[新型コロナウイルス感染症の影響により中止3回] 区教育行政連絡会等:12回(小学校7回、中学校5回)[新型コロナウイルス感染症の影響により中止2回] プロセス指標の達成状況 ・学校の実情に応じた教育が行われ教育内容がより充実したと感じる区内小・中学校長の割合:100% ・学校、地域の実情に応じた教育が行われたと感じる阿倍野区教育会議委員の割合:100%	—	
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組2-1-4 【民間事業者を活用した課外学習支援事業】

		29決算額	302千円	30予算額	660千円	元予算額	675千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	○区内2かの中学生を対象に、放課後の学校施設等に、民間事業者を活用した課外学習の場を設置し、子どもの習熟に応じた学力向上及び学習習慣の形成を図ります。 また、塾代助成事業を利用することで、受講者の塾代負担の軽減を図ります。 ・実施場所:区内2か所	学習した教科について、参加前に比べ、学校の授業がわかるようになったと回答した割合60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)					
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	—					
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)	—					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	・区内2か所(松虫中学校及び文の里中学校)で事業実施(4月開講) ・松虫中学校教室:最大24名受講(定員30名) ・文の里中学校教室:最大44名受講(定員40名)	学校の授業がわかるようになったと回答した受講生の割合について、2教室のうち片方の教室は69%で目標を達成しました。しかしもう片方の教室では42%で、どちらでもないと回答した受講生が23%存在しました。どちらでもないと感じる受講生が「わかるようになった」と感じるような事業内容にすることが必要です。					
自己評価	プロセス指標の達成状況	② (i)					
	学習した教科について、参加前に比べ、学校の授業がわかるようになったと回答した割合 57.8%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 基礎学力を定着させ、学習効果を高めるために生徒のつまづき始めた部分(単元)を把握し、生徒一人ひとりに合わせた学習計画に沿って、教科書準拠教材やICT教材等を効果的に組み合わせ活用して基礎学力の定着をはかり、学校授業の理解につながるよう取り組みます。					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア					
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)	—					

具体的取組2-1-5 【こどもの「生きる力」を育む事業】

		29決算額	—円	30予算額	4,850千円	元予算額	6,291千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	○「貧困の連鎖」を断ち切るため、生活困窮世帯等の中学生を対象に学習支援を行い、高校進学に必要な基礎学力を形成するとともに、社会体験・キャリア教育等を提供することで、こどもの「生きる力」を育み、将来における一人ひとりの社会的・職業的自立を図ります。 ・学習支援:夜間に週2回、1コマ2時間程度、学生スタッフ等による生徒の習熟度に応じた少人数制の個別指導 ・社会体験・キャリア教育:2ヶ月に1回程度、地域等でのボランティア・職業体験やゲストスピーカーによる講話を実施	・参加生徒の学力(点数)10%以上の向上 ・参加前に比べ、「授業時間以外の1日あたりの勉強時間が増えた」と回答した生徒の割合60%以上 【撤退・再構築基準】 参加生徒の学力向上が5%未満であった場合、または、参加前に比べ「授業時間以外の1日あたりの勉強時間が増えた」と回答した生徒の割合が40%未満であった場合、事業の再構築を行います。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)					
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	—					
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)	—					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	・学習支援:毎週火・木曜日18:30~20:30実施、32名参加登録[定員25名程度][新型コロナウイルス感染症の影響により3月中止] ・社会体験・キャリア教育:2ヶ月に1回程度実施(5/30、7/4、10/22、10/31、11/26、12/24、1/9、2/27)	参加前に比べ、「授業時間以外の1日あたりの勉強時間が増えた」と回答した生徒の割合は目標値を上回りましたが、参加生徒の学力(点数)の向上が目標値である10%を下回り、5.9%となっています。生徒の習熟度に応じた少人数制の個別指導により学習習慣の定着は見られたものの、点数の十分な向上には繋がっていませんでした。					
自己評価	プロセス指標の達成状況	② (i)					
	・参加生徒の学力(点数)の向上 5.9% ・参加前に比べ、「授業時間以外の1日あたりの勉強時間が増えた」と回答した生徒の割合 83.9%	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 参加生徒が安心して学習できる環境を整え、一人ひとりの状況や特性に応じ、柔軟に教材を準備して授業を行う「さかのぼり学習」や相談支援を踏まえた学習支援を行い、学校での授業内容を確実に理解でき、自主的な学習習慣が定着することで参加生徒の学力(点数)が向上するよう取り組みます。					
自己評価	戦略に対する取組の有効性	ア					
	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)	—					

めざす成果及び戦略 2-2 【子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育める環境づくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> 身近な地域の中で、安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境があると感ぜられる状態		戦略(中期的な取組の方向性) 子育て世代が安心して子育てができるよう様々なニーズに対応し、きめ細やかな取組を行い、子ども・青少年の健やかな成長を支える地域の取組を支援します。	
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) 安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境があると感ぜる区民の割合:2年度までに70%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別
	安心して子育てしやすく、子ども・青少年が健やかに育つ環境があると感ぜる区民の割合:70.2%	72.2%	A	A
	今後の対応方向	※有効性が「イ」の場合は必須		
戦略の進捗状況	a	A:順調 B:順調でない		

具体的取組 2-2-1 【子育てカウンセリング事業】

29決算額 1,578千円 30予算額 2,333千円 元予算額 1,725千円

計画	当年度の取組内容 ○専門家によるカウンセリングや助言等の実施により発達に気になる子の支援を充実させるとともに保護者の仲間づくりを支援します。 ・ピア・カウンセリング:月1回 ・運動サポート:月1回 ・ふれあい体験「びああべのん」:週1回 ・保護者向け就学前勉強会:年5回 ・専門家(作業療法士・理学療法士・言語聴覚士)による助言指導:各年13~14回程度 ・ペアレント・トレーニング:全6回(就学前) 全5回(学齢期)		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) カウンセリングや助言を受け、不安感が軽減したと回答した相談者等の割合80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。	
	前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・ピア・カウンセリング:12回24組【年12回24組】 ・運動サポート:12回延べ142人【年12回延べ198人】 ・ふれあい体験「びああべのん」:40回延べ823人【年44回延べ1,017人】 ・就学前勉強会:5回×35人【年6回×29人】 ・専門相談:OT14回延べ131組、PT12回延べ30組、ST15回延べ43組【OT年14回延べ124組、PT年13回延べ36組、ST年13回延べ42組】 ・ペアレント・トレーニング(就学前):6回×9人【6回×9人】 ・ペアレント・トレーニング(学齢期):5回×8人		プロセス(過程)指標 30年度達成状況 ・カウンセリングや助言を受け、ストレスが軽減したと回答した相談者の割合:90%	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	—	—	
自己評価	当年度の取組実績 ・ピアカウンセリング:月1回 ・運動サポート:月1回 ・ふれあい体験「びああべのん」:週1回 ・保護者向けの就学前勉強会:全6回 ・専門相談(作業療法士・理学療法士・言語聴覚士)による助言指導相談 OT:年14回、PT:年12回、ST:年14回 ・ペアレントトレーニング(就学前)全6回 ・ペアレント・トレーニング(学齢期)全5回		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況 カウンセリングや助言を受け、ストレスが軽減したと回答した相談者の割合90%		① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア	—	



具体的取組2-2-2 【子育て支援事業】

		29決算額	590千円	30予算額	733千円	元予算額	1,183千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	○地域で子育て家庭に対する支援ができるよう取組みます。 ・子育て講演会:年1回 ・子育て支援者講座:年4回 ・親子フェスタ(つながりフェスタ)の開催:年1回 ・「子育てミニニュース」の発行:月1回、3,000部 ・アドバイザー連絡会議:年3回程度 ・3か月健診等で子育てマップを配布 ・幼保(保育施設)等情報フェア:年1回		子育て支援関係のイベントの参加者で、『あべの子育てマップ』や『子育てミニニュース』が、「自分の子育てに役立っている」と回答した人の割合60%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。				
			前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・子育て講演会:3/5開催82名参加【2/13開催80名参加】 ・子育て支援者講座:5/22、7/3、12/18、3/5開催各20~30名参加【5/19、6/29、12/15、2/13開催各20名~30名参加】 ・親子フェスタ(つながりフェスタ):10/27開催715名【10/28開催440名】 ・子育てミニニュースの発行:月1回、3,000部【月1回、3,000部発行】 ・アドバイザー連絡会議の開催:2回 5/30、7/12開催【2回 5/19、12/15開催】 ・あべの子育てマップ(子育て情報)発行:8月 1,000部【8月 1,000部】				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	・子育て講演会の開催:年1回 ・子育て支援者講座の開催:年4回 ・親子フェスタ(つながりフェスタ)の開催:年1回 ・子育てミニニュースの発行:月1回、3,000部 ・アドバイザー会議の開催:2回 ・あべの子育てマップ(子育て情報)発行:8月、1,000部 ・保育施設等情報フェア:年1回		—				
	プロセス指標の達成状況 子育て支援関係のイベントの参加者で、『あべの子育てマップ』や『子育てミニニュース』が、「自分の子育てに役立っている」と回答した人の割合81%		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	① (i)	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組2-2-3 【不登校児などの相談支援事業】

		29決算額	3,751千円	30予算額	4,028千円	元予算額	4,018千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	○学校になじめない等の悩みを持つ18歳以下の子どもとその保護者に対する相談業務を行います。 ・2名の心理相談員(臨床心理士等)が学校やこども相談センター等とより強化連携をし、子どもの社会参加の促進と保護者の負担の軽減を図ることができるよう専門的な相談をします。:随時(事前予約制) ○区役所内に子どもの居場所を開設しています。 ・居場所の開設:週1日		不安感・負担感の軽減が図られたと回答した相談者等の割合80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。				
			前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・臨床心理士等の資格を有する心理相談員2名で相談業務随時面談、居場所開設を週1日 ・相談延べ件数413件【283件】  プロセス(過程)指標 30年度達成状況 ・不安感・負担感の軽減が図られたと回答した相談者等の割合:94.7%				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	・小中学校との連携による不登校や発達障がいなど専門的な相談や、学校になじめない等の悩みを持つ子どもとその保護者の相談に対応する心理相談員の相談業務:延べ474件 ・居場所の開設:延べ101人		—				
	プロセス指標の達成状況 不安感・負担感の軽減が図られたと回答した相談者等の割合95.7%		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	① (i)	—					
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				



具体的取組 2-2-4

【地域に密着した食育の推進】

29決算額 24千円 30予算額 114千円 元予算額 103千円

計画	<b>当年度の取組内容</b> ○地域に密着した継続的な食育を推進するため阿倍野区食育推進ネットワークを強化します。 ・連絡会の開催:年2回 ・連絡会担当者向け研修会:年1回(11月開催予定) ・連絡会に対する物品貸出:通年 ○子どもの養育者に対する食育講座:年1回 ○乳幼児を対象とした栄養相談 ・離乳食講習会:月1回 ・乳幼児健診時:月3回 ○子育て支援施設等での講話・調理実習:年6回程度	<b>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</b> 食育講座、調理実習等に参加したこどもの養育者のうち、食生活や食習慣の改善に取組もうとする者の割合50%以上 <b>【撤退・再構築基準】</b> 上記目標が30%未満であれば、事業を再構築します。
	<b>前年度までの実績</b> 30年度実績【29年度実績】 ・連絡会の開催:2回【2回】 ・担当者向け研修会:1回【1回】 ・物品貸出:0回【2回】 ・食育講座:1回【1回】 ・離乳食講習会:12回【12回】 ・乳幼児健診時相談:36回【36回】 ・子育て支援施設等での講話・調理実習:8回【10回】	

中間振り返り	<b>プロセス指標の達成状況</b> ① (i)	<b>課題と改善策</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 プロセス指標は達成しているが、講座によっては参加者数が少ない。より多くの方に「食」に関する情報を提供できるよう、開催時期や内容を見直す必要がある。
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	<b>戦略に対する取組の有効性</b> — ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	<b>当年度の取組実績</b> ・阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会の開催:2回 ・阿倍野区食育推進ネットワーク連絡会担当者向け研修会:1回 ・子どもの養育者に対する食育講座:1回 ・離乳食講習会:11回[新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回] ・乳幼児健診時:34回[新型コロナウイルス感染症の影響により中止2回] ・子育て支援施設等での講話・調理実習:13回	<b>課題</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 —
	<b>プロセス指標の達成状況</b> 食育講座、調理実習等に参加したこどもの養育者のうち、食生活や食習慣の改善に取組もうとする者の割合100%	<b>改善策</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 —
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	<b>戦略に対する取組の有効性</b> ア ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組 2-2-5

【乳幼児発達相談強化事業】

29決算額 2,460千円 30予算額 3,408千円 元予算額 3,306千円

計画	<b>当年度の取組内容</b> ○乳幼児を対象とした心理相談、発達相談を行います。 ・乳幼児健診時等:月6回 ・4.5歳児発達相談:年12回 ・乳幼児を対象とした事業と連携した相談業務:随時 ・保育所、幼稚園での巡回心理相談の実施:12か所	<b>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</b> 専門機関につなげる必要のある相談者のうち、実際につなげることができた割合が80%以上 <b>【撤退・再構築基準】</b> 上記目標が60%未満であれば、事業の再構築をします。
	<b>前年度までの実績</b> 30年度実績【29年度実績】 ・心理相談 6回/月【6回/月】(1歳半児健診、3歳児健診、発達相談、2歳児教室2回/月、育児教室)、保育所・幼稚園での巡回心理相談 利用者数:626人【535人】 ・4.5歳児発達相談 12回【13回】 利用者数:24人【31人】	

中間振り返り	<b>プロセス指標の達成状況</b> ① (i)	<b>課題と改善策</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 —
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	<b>戦略に対する取組の有効性</b> — ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	<b>当年度の取組実績</b> ・心理相談4回/月(1歳半児健診、3歳児健診、発達相談、2歳児教室等)保育所、幼稚園での巡回心理相談 利用者数:620人 ・4.5歳児発達相談 10回 利用者数:13人 ・乳幼児を対象とした事業と連携した相談業務:随時 ・保育所、幼稚園での巡回心理相談の実施:19か所	<b>課題</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 —
	<b>プロセス指標の達成状況</b> 専門機関につなげる必要のある相談者のうち、実際につなげることができた割合が95.2%	<b>改善策</b> ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 —
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成	<b>戦略に対する取組の有効性</b> ア ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組2-2-6

【妊娠期から子育て期までの切れ目ない相談支援】

		29決算額	30予算額	元予算額
		— 円	183千 円	170千 円
計画	<p>当年度取組内容</p> <p>○妊娠期からの切れ目ない相談支援を充実させるため、周産期ケアの専門家である助産師による専門相談を開設します。 ・年12回(月1回 3か月児健診に併設)</p> <p>○産前、産後の育児不安を解消するため、助産師の監修による産前・産後のケアに関する情報を発信します。 ・年6回</p> <p>○母子手帳交付時に担当保健師を紹介し、保健師担当部署の電話番号の登録を促す他、家族支援の一環として父親への育児情報の提供等により、身近な相談窓口としての常設相談機能を充実させます。</p>	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>・助産師専門相談の結果、「育児不安が軽減されたと感じる」と回答した人の割合が60%以上 【撤退・再構築基準】 ・上記項目について40%未満の場合は事業を再構築します。</p>		
	<p>前年度までの実績</p> <p>30年度実績</p> <p>・専門相談開設12回(相談者数:73人) ・情報発信6回</p>			
中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>① (i)</p> <p>①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>		
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>—</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>			
自己評価	<p>当年度取組実績</p> <p>(R2.3月現在)</p> <p>・専門相談開設12回(相談者数59人) ・情報発信6回</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>		
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>・助産師専門相談の結果、「育児不安が軽減されたと感じる」と回答した人の割合が90.3%</p> <p>① (i)</p> <p>①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>		
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>			

## 重点的に取り組む主な経営課題

## 経営課題3

## 【地域で支えあい、誰もが幸せに暮らせるまち】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

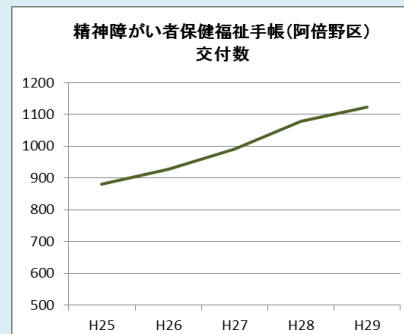
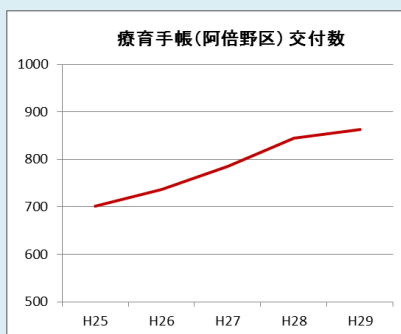
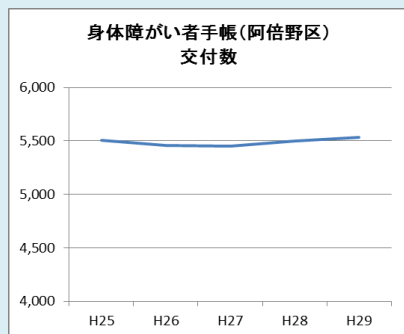
阿倍野区に暮らす、すべての人々が住みなれた地域で、お互いが支えあい、いつまでも幸せに暮らせるまちをめざします。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・地域別人口（平成27年度国勢調査）

	人口	子ども(15歳未満)		高齢者(65歳以上)		高齢者(75歳以上)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
阿倍野区	107,626	13,312	12.5%	27,171	25.5%	13,745	12.9%
高松	10,002	1,085	11.1%	2,648	27.0%	1,304	13.3%
常盤	16,700	2,517	15.3%	3,232	19.6%	1,630	9.9%
金塚	6,097	581	9.6%	1,713	28.4%	837	13.9%
文の里	7,777	956	12.5%	1,719	22.4%	857	11.2%
王子	9,446	885	9.5%	2,585	27.8%	1,309	14.1%
丸山	7,302	931	12.8%	1,977	27.3%	991	13.7%
長池	11,872	1,233	10.6%	3,192	27.4%	1,590	13.6%
阿倍野	8,621	1,025	11.9%	2,493	29.0%	1,234	14.3%
晴明丘	17,008	2,329	13.7%	4,373	25.8%	2,234	13.2%
阪南	12,801	1,770	14.0%	3,239	25.6%	1,759	13.9%
大阪市	2,691,185	295,298	11.2%	668,698	25.3%	317,893	12.0%

・手帳交付数



・「あべの 安全・安心 見守り、支え合い隊」事業

災害時等要援護者名簿実登録者数(平成31年2月末) 4,345件

災害時等要援護者名簿提供地域(平成31年2月末) 10地域

・認知症高齢者等見守りネットワーク事業

登録者数(平成31年2月末) 145件

協力者数(平成31年2月末) 311件

・平成28年度の死因別死亡率(人口10万対)において、悪性新生物(がん)の割合が314.3で、全国平均(293.8)より高い。

・平成28年度、40歳以上の脂質異常症の年齢調整有病者割合は、男43.3%、女54.8%である。(市:男42.9%、女:54.0%)

・平成28年度の特定健診受診率は、24.1%(市:22.0%、府:30.0%、国36.6%) 特定保健指導終了者割合は、2.4%(市:3.3%、国24.7%)

特定健康診査受診率の年次推移(男)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
国	29.7%	30.3%	31.4%	32.3%	32.7%	-
大阪府	24.4%	24.6%	25.7%	26.5%	26.7%	27.0%
大阪市	17.4%	17.4%	18.6%	19.3%	19.7%	20.2%
阿倍野区	18.5%	19.1%	20.2%	21.7%	21.7%	21.9%

特定健康診査受診率の年次推移(女)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
国	37.3%	37.8%	38.9%	39.8%	40.1%	-
大阪府	30.6%	30.8%	32.0%	32.8%	33.0%	33.2%
大阪市	22.1%	21.7%	23.1%	23.6%	24.0%	24.7%
阿倍野区	23.0%	22.4%	24.8%	26.0%	26.0%	26.6%

・あべのウォークを知っていると答えた区民の割合:38.2%(30年度)

・運動習慣ありと答えた区民の割合:35歳以上で35.2%(30年度)

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・区内の高齢者人口の割合は高く、また各種手帳を持つ支援を必要とする方々は増加していますが、現状の公的サービスだけでは多種多様なニーズを持つ一人ひとりの生活を支えることは困難な状況にあります。

・地域住民が互いに見守り、支えあうことが必要ですが、都市化・核家族化の進展により、地域コミュニティが希薄化しています。

・区の福祉的ニーズが年々増加し、「複雑化・多様化・深刻化」しています。

・健康寿命を延伸させるためには、生活習慣病の改善・早期発見、早期治療が必要といわれています。40歳以上の脂質異常が高いことから、運動習慣を持つ区民を増やす必要があります。また、特定健診受診率が府や国より低く、特定保健指導終了者の割合は本市平均や国より低いいため、高める必要があります。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内各地域で異なる福祉課題を把握し、それぞれのニーズに合った公的サービスに迅速につなげ、幸せに暮らせるように、地域で互いが支えあう福祉コミュニティの構築が急務となっています。</li> <li>・高齢化の進展に伴い増加が見込まれる認知症高齢者に向けた、見守りや支援の体制づくりが今後の重要な課題となっています。</li> <li>・さまざまな課題が重複する福祉ニーズに対応するため、関係機関のつながりづくりを進める必要があります。</li> <li>・特定健診の受診率を高め、早期発見、早期治療につなげる必要があります。</li> <li>・区民に対して健康増進や生活習慣病予防、疾病に関する正しい知識の普及・啓発を行うとともに健康づくりの一環である運動「あべのウォーク」等を行うことで健康づくりの機運を高める必要があります。</li> </ul>

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括
<p><b>自己評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が主体となった「地域福祉」の推進において意見交換会が開催されるなど具体的な活動が実施されています。</li> <li>・地域福祉コーディネーターを軸として、地域の要援護者の把握や見守りボランティア活動を継続的に取り組んだことにより、要援護者の見守り体制の充実、地域で世代を超えて相互に支え合う体制の拡充・強化が更に図られたと考えます。</li> <li>・今後、更に地域で実施されている様々な活動について、関心を持ってもらえるように周知・啓発を行い、「地域福祉」の推進と認知度向上を図ります。</li> <li>・特定健診の受診率は横ばいであり、更なる受診率向上に向けた取組みを進めていく必要があります。</li> <li>・あべのウォークは区民への周知が進んできており、運動の習慣化にも一定の効果があったと考えます。今後も引き続き、あべのウォークに参加していない年齢層への普及啓発、情報提供を重点的に行う必要があります。</li> </ul>

めざす成果及び戦略 3-1 【地域で互いが支えあい、幸せに暮らせる仕組みづくり】

計画	めざす状態＜概ね3～5年間を念頭に設定＞	戦略（中期的な取組の方向性）
	地域住民が主体となり、地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる状態	地域における福祉課題を地域が把握し、解決できる仕組みづくりの構築に向けた支援に取り組みます。また、阿倍野区で地域福祉活動を進める団体や福祉関係機関などと連携し、地域で互いが支えあう福祉コミュニティづくりを進めます。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）	
	地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる区民の割合：2年度までに60%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	
	地域の特色を活かした「地域福祉」が進んでいると感じる区民の割合28.8% (30年度より4.2%下がったものの、29年度(18.1%)より10.7%伸びていることから、アウトカムの達成状況は順調と判断)	33.0%	A	A	具体的な取組を確実に進めていますが、年齢層が低いほど、地域福祉が進んでいないと感じている区民の割合が高い傾向にあります。
	A：順調 B：順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 地域で実施されている様々な活動について関心を持ってもらえるように周知・啓発を行います。			
戦略の進捗状況	a	a：順調 b：順調でない			



29決算額 34,987千円 30予算額 35,241千円 元予算額 35,688千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <p>要援護者の実態把握から地域の福祉課題やニーズの把握を行い、地域自らが見守り体制等を構築し、新たなネットワークづくりができるよう支援します。</p> <p>また、「あべのオレンジメール」や「あべのあんしんステーション」の取組みにより、認知症高齢者等に対する地域での見守りの広がりを支援していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者名簿への実登録者数：4,300件以上(うち新規登録者数200件以上)</li> <li>・見守り訪問等のボランティア活動：延べ25,000回以上</li> <li>・認知症サポーターへ向けた研修・講演会等の実施：3回以上</li> </ul> <p>①「あべの 安全・安心 見守り、支え合い隊」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉コーディネータの配置</li> <li>・要援護者の詳細情報の把握と名簿への登録</li> <li>・地域のボランティア活動の推進とボランティアの発掘・育成</li> <li>・見守り体制の構築に向けた、地域団体、関係機関等と連携した取り組み推進</li> <li>・要援護者の個別支援のための連絡調整</li> </ul> <p>②「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者情報の整備・管理</li> <li>・孤立世帯等への専門的対応</li> <li>・認知症高齢者等の行方不明時の早期発見</li> </ul>	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>要援護者本人やその家族等に対するアンケートにおいて「地域などの見守りにより安全・安心を感じるようになった」と感じる方の割合70%以上【撤退・再構築基準】</p> <p>上記目標が50%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>H25年度から区独自事業として始まった「あべの安全・安心 見守り、支え合い隊事業」は、H27年度より大阪市全区で始まった「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」と連携し事業を実施しています。</p> <p>30年度実績【29年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者名簿実登録者数：4,392件(うち新規登録者数576件、転出等による削除数437件)【4,253件(うち新規登録者数727件、転出等による削除数643件)】</li> <li>・見守り訪問等のボランティア活動：50,743回【49,069回】</li> <li>・認知症サポーターへ向けた研修・講演会等：4回</li> </ul>
----	---	---

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>① (i)</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>—</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者名簿実登録者数：4,356件(うち新規登録者数646件、転出等による削除数682件)</li> <li>・見守り訪問ボランティア活動 58,323回</li> <li>・認知症サポーターへ向けた研修・講演会等 6回</li> </ul>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>要援護者本人やその家族等に対するアンケートにおいて「地域などの見守りにより安全・安心を感じるようになった」と感じる方の割合90%</p> <p>① (i)</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

29決算額 393千円 30予算額 430千円 元予算額 266千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	平成28年9月末に策定した「阿倍野区地域福祉計画」の意義や取り組み等を地域へ浸透させ、「地域福祉」の推進に向けた体制づくりを支援します。 ・地域における地区懇談会等意見交換会の開催:10回 ・地域福祉イベント等における広報活動:2回以上		「阿倍野区地域福祉計画」に基づき地域がそれぞれの課題に応じて実施した取組み5件以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が3件未満であれば、事業を再構築します。  前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 意見交換会:8回【10回(4地域9回、全地域1回)】 地域福祉イベント等における広報活動:4回【5回】
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	—	—
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	・意見交換会:8回 ・地域福祉イベント等における広報活動:4回		—
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	「阿倍野区地域福祉計画」に基づき地域がそれぞれの課題に応じて実施した取組み5件		
①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		—	
	戦略に対する取組の有効性	ア	—

めざす成果及び戦略 3-2 【区民との協働による健康づくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> 区民が健康づくりに取り組めている状態		戦略（中期的な取組の方向性） 区民一人ひとりの健康意識を高め、主体的に健康づくりに取り組めるよう支援します。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 運動習慣がある35歳以上の区民の割合：2年度までに40%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	運動習慣がある35歳以上の区民の割合：39.0%	35.2%	A	A
戦略の進捗状況		a	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
		a:順調 b:順調でない	A:順調 B:順調でない	

具体的取組 3-2-1 【区民との協働による阿倍野区健康づくり推進事業】

29決算額 176千円 30予算額 216千円 元予算額 211千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウォーキングイベントの開催                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキング大会：年3回 ・ウォーキングマップの配付</li> <li>・あべのちょこっとウォーク：年7回（各老人クラブ連合会との協働）</li> </ul> </li> <li>○ウォーキングイベントの企画・運営等を担うサポーターの育成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングサポータースキルアップ講座：年2回</li> </ul> </li> <li>○特定健診、がん検診、骨量検査受診者数の増加を目的とした活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健診時の受診勧奨 ・広報紙・ホームページへの掲載</li> <li>・各種健康講座での周知</li> </ul> </li> <li>○ICTを活用した大阪府健康マイレージシステムの活用推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民への周知</li> </ul> </li> </ul>		ウォーキング大会参加者のうちウォーキング大会が運動の習慣化につながると答えた方の割合50%以上 【撤退・再構築基準】 30%未満であれば、事業を再構築します。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	—	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキング大会2回（390人）〔新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回〕</li> <li>・あべのちょこっとウォーク6回（679人）〔新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回〕</li> <li>・健康づくり展げる講座7回（76人） ・スキルアップ講座2回（38人）</li> <li>・ウォーキングマップの窓口設置</li> <li>・特定健診・がん検診・アスマイルの広報紙への掲載：12回</li> <li>・各種健康教室での特定健診・がん検診・骨量検査の周知：30回</li> </ul>			
	プロセス指標の達成状況	ウォーキング大会参加者のうちウォーキング大会が運動の習慣化につながると答えた方の割合：94.8%	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
		①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		
戦略に対する取組の有効性		ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）	

## 重点的に取り組む主な経営課題

## 経営課題4

## 【魅力と活力にあふれるまち】

計 画	めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞ 地域や関係機関等の協働により、人・団体等が交流し、にぎわいとうるおいのあるまちづくりと地域住民による自律的な地域運営と豊かなコミュニティの形成による活力あふれるまちづくりを支援します。
	現状（課題設定の根拠となる現状・データ） ・地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じる割合（地域活動協議会へのアンケート）：46.9%（28年度）、52.0%（29年度）、56.3%（30年度） ・地域活動協議会補助金を活用し、地域のまちづくりのために実施された事業数：10地域129事業（28年度）、10地域137事業（29年度）、10地域143事業（30年度） ・「地域活動協議会」を知っている区民の割合：14.6%（28年度）、18.0%（29年度）、38.9%（30年度） ・大阪市南部の玄関口あべの・天王寺ターミナルのメインストリートであるあべの筋において、魅力あるまちづくりをめざして安全面にも考慮しつつ魅力的な空間形成や回遊性の向上を図るため、阪堺電車軌道敷の芝生化などの整備を行っています。この取り組みにより「まちが魅力的になった」と感じる区民の割合：78.0%（28年度）、78.8%（29年度）、72.7%（30年度）
	要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果） ・現状では、地域活動を行うにあたって必要な人材が十分ではありません。 ・地域活動協議会の認知度が低く、広報活動を強化する必要があります。 ・地域コミュニティ活性化のための事業を充実する必要があります。 ・あべの筋について、阪堺電車の軌道緑化などの魅力的な景観を活用するとともに、整備の進む東側の歩車道についても回遊性を高めるための魅力的な空間形成を行ない、阿倍野を訪れる人に大阪のランドマークとしてアピールしていく必要があります。
	課題（上記要因を解消するために必要なこと） ・地域団体等の課題解決に向け組織運営、人材育成などの支援をする必要があります。 ・地域活動協議会の活動に対して財政的支援が不可欠であると考えます。 ・あべの筋の整備完了後も、魅力あるまちづくりの取り組みを維持発展させていくためには、民間活力を活用したタウンマネジメントが必要です。
自 己 評 価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括 ・地域活動協議会補助金の交付をはじめ、中間支援組織（阿倍野区まちづくりセンター）を活用した地域活動協議会への支援を進めており、区内全10地域の地域活動協議会においては、地域課題解決のための各種取り組みが実施されており、住民主体のまちづくりが進み一定の成果は得られたものと考えます。しかし、新たな担い手不足などの課題もあるため、引き続き各地域活動協議会の特色やニーズにあった支援を行っていきます。 ・あべの・天王寺ターミナル周辺について、路上喫煙禁止地区を指定し、継続して周知、啓発することで、まちの魅力向上につなげます。また、各商業施設でストリートライブ等の音楽イベントが定期的に行われ、地域団体によるあべの歩道橋のイルミネーションによるライトアップの実施など、地域主導によるまちの魅力づくりが引き続き進められるとともに、阿倍野区内の魅力ある施設やイベント等を区内外に向けて情報発信を行うことにより、にぎわい創出につながっていると考えます。今後も継続的に、地域と連携して情報発信を行えるように取り組みを進めていきます。



めざす成果及び戦略 4-1 【地域の自主的なまちづくりの活動支援・促進】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 校区等地域において、地域活動協議会による自律的な地域運営が進んでいる状態		戦略（中期的な取組の方向性） 身近な地域の課題等の解決に向け、さまざまな活動主体の協働・連携による地域活動を支援します。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ※重点目標 地域運営に様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると感じている区民の割合：2年度までに60%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別 全体
	地域運営に様々な活動主体が協働し、その話し合いのもと合意を形成し自ら地域課題の解決に取り組むなど、地域が自律的に運営されていると感じている区民の割合 47.5%		46.2%	A A
	戦略の進捗状況	b	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	

具体的取組 4-1-1 【人と人とのつながりづくりの推進】★

29決算額 8,912千円 30予算額 8,964千円 元予算額 8,962千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	<p>○豊かなコミュニティづくりの形成を目的に全区民を対象に、地域活動団体、市民活動団体、企業等、区民ボランティアと協働しながら誰もが楽しめる交流の場を提供します。 【コミュニティ育成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あべのカーニバル(区民まつり)1回</li> <li>あべのスポーツフェスタ(区民体育祭)1回</li> <li>成人の日記念のつどい1回</li> <li>たこあげ大会1回</li> </ul> <p>○人と人とのつながりづくりのための取組みへの支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のつながりの基礎となる自治会・町内会などのつながりづくりのための活動への支援</li> <li>自治会・町内会単位の活動について、広報紙やツイッターなどによる周知、講師として職員派遣、大阪市等の制度紹介などの支援</li> </ul>		<p>①コミュニティ育成事業参加者へアンケート調査を行い、他の参加者や団体と交流できたと感じた割合が80%以上</p> <p>②身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合：51.8%（30年度目標：50%） 【撤退・再構築基準】</p> <p>上記目標①が60%未満または②が30%未満であれば、事業を再構築します。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>30年度実績【29年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あべのカーニバル(区民まつり)：10/8開催【10/9開催】</li> <li>あべのスポーツフェスタ(区民体育祭)：11/3開催【11/3開催】</li> <li>成人の日記念のつどい：1/14開催【1/8開催】</li> <li>たこあげ大会：2/11開催【2/11開催】</li> </ul> <p>プロセス(過程)指標 達成状況</p> <p>身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合 平成30年度：46.27% 平成29年度：46.8%</p>	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	—	—	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<p>○豊かなコミュニティづくりの形成を目的に全区民を対象に事業を行いました。 【コミュニティ育成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あべのカーニバル(区民まつり)：10/14開催</li> <li>あべのスポーツフェスタ(区民体育祭)：11/3開催</li> <li>成人の日記念のつどい：1/13開催</li> <li>たこあげ大会：2/11開催</li> </ul> <p>○人と人とのつながりづくりのための取組みの支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師として職員派遣等を地域の代表者で構成する地域連絡会議で周知【10回】</li> <li>自治会・町内会の必要性について啓発：広報紙8回掲載、区ホームページ：随時</li> </ul>		<p>身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合が目標値の51.8%以下の45.2%という結果となっております。若い世代など幅広い世代への市民参画の促進が不十分で、地域につながりを感じられなかったことが要因だと考えられます。</p>	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<p>①コミュニティ育成事業参加者へアンケート調査を行い、他の参加者や団体と交流できたと感じた割合90.9%</p> <p>②身近な地域でのつながりに関して肯定的に感じている区民の割合45.2%</p>		<p>地域のつながりの基礎となる自治会・町内会等の必要性について、広報紙や区ホームページ、SNSを活用し、若い世代を初めとする幅広い世代へ周知するとともに、「自治会・町内会加入促進チラシ」、「地活協りーフレット」を作成し、新たに転入されてきた方に配付し、地域の魅力のある事業や活動などを発信いたします。</p>	
戦略に対する取組の有効性		ア	—	

具体的取組4-1-2

【地域活動協議会活動支援事業】

29決算額 20,510千円 30予算額 22,030千円 元予算額 22,020千円

計画	当年度の取組内容 ○校区等地域を範囲として、特定分野の活動団体の活動対象とならない活動分野を補完しながら地域経営を行う準行政的機能を有する地域活動協議会の活動及び運営経費の一部を補助します。 ・地域活動協議会補助金交付(10地域)		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) ・全ての地域活動協議会が補助金を活用し事業実施 ・地域のイベント参加者のうち地域活動協議会補助金が地域の実情に即して活用できていると感じる人の割合が80%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が60%未満の場合事業を再構築します。	
	前年度までの実績 補助金を活用した地域活動協議会数(事業数) 27年度 10地域(113事業)、28年度 10地域(129事業) 29年度 10地域(137事業)、30年度 10地域(143事業)		プロセス(過程)指標 達成状況 地域活動協議会補助金が地域の実情に即して活用できていると感じる人の割合 平成30年度:91.3% 平成29年度:86.1%	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	① (i)	—	
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績 区内全10地域に対して地域活動協議会補助金を交付(145事業実施)		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況 ・地域活動協議会補助金を活用した地域活動協議会数 10地域/10地域 ・地域のイベント参加者のうち地域活動協議会補助金が地域の実情に即して活用できていると感じる人の割合90.3%		① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		① (i)	—
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

29決算額 14,528千円 30予算額 14,155千円 元予算額 13,986千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <p>○中間支援組織(まちづくりセンター)を活用した地域活動協議会の自律運営にかかる支援を実施します。特に、若い世代など幅広い市民参画の促進、新たな担い手の発掘や地域における担い手のスキルアップに向けた支援、自主財源の獲得に向けた支援など地域の特色やニーズに合わせた支援を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地活協の認知度向上のための広報サポート(10地域)</li> <li>・自律運営のための会計サポート(10地域)</li> <li>・担い手確保の発掘や地域の横のつながり、企業や他団体との連携を目的とした交流の場の提供</li> <li>・CB/SB化への働きかけ</li> </ul>		<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>①まちづくりセンターは地域活動に役に立っていると感じる利用者の割合80%以上                  ②地域活動協議会において、地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じる人の割合55%以上                  ③CB/SB(コミュニティ回収)実施件数:3件(平成29年度~令和元年度の3年間で6件)                  【撤退・再構築基準】                  上記目標①が60%未満であれば事業を再構築します。                  上記目標②が45%未満であれば事業を再構築します。                  上記目標③が実施されなければ事業を再構築します。</p>	
	<p>前年度までの実績</p> <p>30年度実績【29年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動フォーラム:1回【1回】</li> <li>・担い手発掘プロジェクト事業、広報サポート、会計サポート:各10地域【各10地域】</li> <li>・地活協リーフレットの作成:年1回【年1回】</li> <li>・CB/SB(コミュニティ回収)実施件数:2件【1件】</li> </ul> <p>プロセス(過程)指標 達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりセンターは地域活動に役に立っていると感じる利用者の割合 平成30年度:83.3% 平成29年度:82.4%</li> </ul>			
中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない                  ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない                  ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>① (i)</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>	
	<p>戦略に対する取組の有効性</p>	<p>—</p> <p>ア:有効であり、継続して推進                  イ:有効でないため、取組を見直す                  ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>	<p>—</p>	
自己評価	<p>当年度の取組実績</p> <p>○中間支援組織(まちづくりセンター)を活用した地域活動協議会の自律運営にかかる支援の実施を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地活協の認知度向上のための広報サポート:全地域(10地域)で実施</li> <li>・自律運営のための会計サポート:全地域(10地域)で実施</li> <li>・担い手確保の発掘や地域の横のつながり、企業や他団体との連携を目的とした交流の場の提供:「あべのほっとカフェ」及び、「地活協フォーラム」を全5回開催</li> <li>・CB/SB化への働きかけ:【コミュニティ回収】未実施の8地域へ働きかけた結果1地域で実施、2地域で実施を検討【新たなペットボトル回収】全地域(10地域)へ働きかけた結果2地域で実施を検討</li> </ul>		<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>CB/SB化への働きかけについて、各地域で説明会を開催し、実施に向けた支援を行いました。が、当年度中に開始が間に合わない等により1地域のみの実施となりました。</p>	
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①まちづくりセンターは地域活動に役に立っていると感じる利用者の割合81.7%                  ②地域活動協議会において、地域活動に新たな担い手が増えてきたと感じる人の割合56.6%                  ③CB/SB実施件数1地域で実施、2地域で実施を検討【平成29年度~令和元年度の3年間で3地域で実施、4地域で実施を検討】</p>		<p>② (i)</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>CB/SB化への働きかけについて、各地域への説明会の開催や実施に向けた支援を、スケジュール感を持って実施していく必要があります。</p>
	<p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった                  ③: 撤退・再構築基準未達成</p>			
<p>戦略に対する取組の有効性</p>		<p>ア</p> <p>ア:有効であり、継続して推進                  イ:有効でないため、取組を見直す                  ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>		

めざす成果及び戦略 4-2 【にぎわいとるおいのあるまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	地域住民・企業等と協働し、阿倍野区の魅力を活用して取り組んでいる状態		区内外から多くの人が集いにぎわいに溢れ、美しくるおいのあるまちづくりをめざすため、課題解決に向けた事業を実施します。	
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)			
	※重点目標 事業実施後、魅力を活用して事業展開ができたと感じる企業等の割合:2年度までに80%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別 全体
	事業実施後、魅力を活用して事業展開ができたと感じる企業等の割合:100%		100%	A A
	戦略の進捗状況	b	a:順調 b:順調でない	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			—	

具体的取組 4-2-1 【あべの筋の魅力ある街づくり】

		29決算額	5,957千円	30予算額	5,948千円	元予算額	8,956千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	○あべの筋について、阪堺電車の軌道緑化などの魅力的な景観を活用するとともに、整備の進む東側の歩車道についても回遊性を高めるための魅力的な空間形成を行ない、阿倍野を訪れる人に大阪のランドマークとしてアピールします。 ・あべの筋を魅力ある空間として維持発展させていくため、あべの筋沿道周辺の地域によるまちづくり団体の組織化(TMO)等を支援し、まちの環境向上の取組を行います。(年4回) ・あべの筋とその周辺地域を路上喫煙禁止地区として指定し、まちの魅力向上につなげます。 ・地域団体・企業等による音楽イベントやイルミネーション等、継続的ににぎわいづくり等の取組を支援します。(各取組み年1回)		阪堺軌道上町線の芝生化や地域によるにぎわい創出の取り組みにより「まちが魅力的になった」と思う区民の割合80%以上【撤退・再構築基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。				
			前年度までの実績 ・平成27年度 軌道敷芝生化工事を一部実施するとともに、あべの筋東側歩車道について、快適な歩行者空間の形成などに配慮した整備設計を行いました。 ・平成28年度 阪堺軌道敷への芝生の植生が完了地域団体・企業等による音楽イベントやイルミネーション等、にぎわいづくり等の取組みに対しての支援を行いました。(3回) ・まちづくり団体の組織化に向けて、区役所が先行して収入確保の取組みの一環である、あべの筋西側等の駐輪場施設等で広告事業を実施しました。 ・平成29年度 収入確保の取組みとして広告事業エリアを拡大				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		—				
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	年間を通じて、阪堺軌道上町線軌道敷の芝生維持管理を行いました。まちづくり団体の組織化に向け、地域団体・企業等によるあべの筋清掃活動【2回】[新型コロナウイルス感染症の影響により中止1回]や音楽イベント・イルミネーション等【2回】のにぎわいづくり等の取組みへの支援を行いました。令和2年2月1日あべの筋とその周辺地域を路上喫煙禁止地区として指定しました。		あべの筋の阪堺電車軌道敷の芝生化は完了したものの、引き続きあべの筋東側の車道整備工事が長期化していることもあり、まちが魅力的になったと実感いただける方の割合が業績目標に達することができませんでした。				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	「まちが魅力的になった」と思う区民の割合76.6%		② (i)				
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		「まちが魅力的になった」と思う区民の割合は76.6%でしたが、「あべの筋や阿倍野歩道橋での美化活動、歩道橋でのイルミネーションなどの取組み続けることにより、まちの環境向上やにぎわいづくりにつながる」と思う区民の割合は85.4%であったことから、今後も継続して地域団体・企業等が行うまちの環境向上やにぎわいづくりなどの取組みへの支援を行います。				
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				



具体的取組4-2-2

【花と緑のまちづくり支援事業】

29決算額 752千円 30予算額 878千円 元予算額 856千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	○花づくり拠点で種から苗を育て、小学校・保育所などの2次育成場所で開花まで育成し、公園・商店街などの最終配置場所へ配置します。 ・種まき:年2回、花苗配置数:22,000株 ・参加団体数42団体、2次育成場所数21か所、最終配置場所数44か所		・参加団体数38団体(現参加団体の90%)を確保 【撤退・再構築基準】 ・参加団体数が33団体(現参加団体の80%)以下となった場合は、事業を再構築します。
			前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・種まき:年2回【年2回】、花苗配置数:19,368株【20,976株】 ・参加団体数42団体【43団体】、2次育成場所数21か所【21か所】、最終配置場所数44か所【48か所】
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		—
	戦略に対する取組の有効性	—	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	・種まき:年2回、花苗配置数:20,256株 ・参加団体数42団体、2次育成場所数21か所、最終配置場所数45か所		—
	プロセス指標の達成状況	① (i)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
参加団体数42団体(増減なし)			—
①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

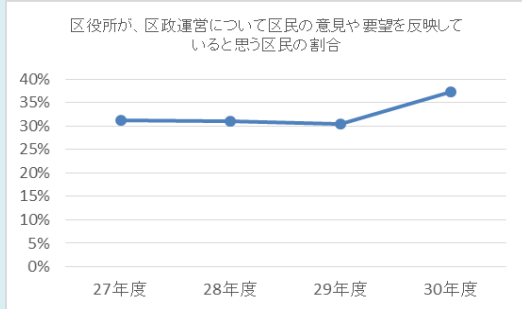
経営課題5

【区民から信頼される区役所づくり】

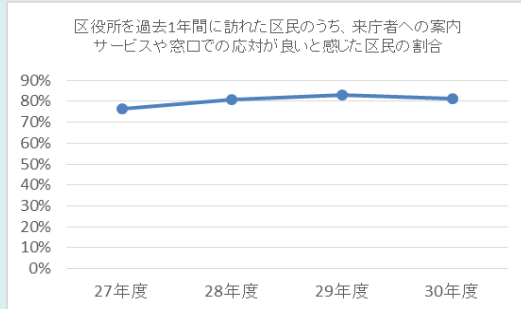
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

区民の意見やニーズを的確に把握し、施策・事業に反映します。また、区民・利用者の視点に立った質の高いサービスの提供や情報発信の強化など効果的・効率的な区政運営をめざします。

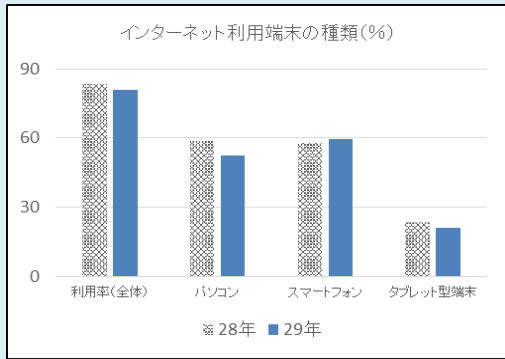
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）



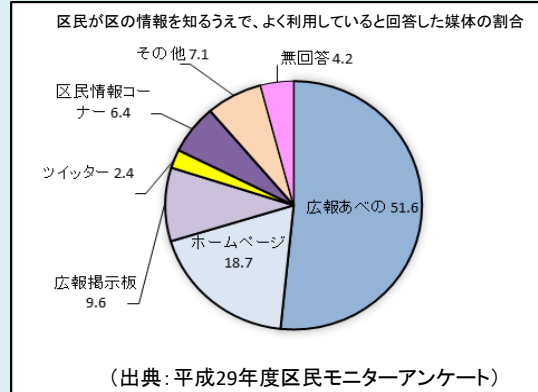
（出典：区民モニターアンケート）



（出典：区民モニターアンケート）



（出典：総務省平成30年版情報通信白書）



（出典：平成29年度区民モニターアンケート）

計画

- ・区政会議開催数（部会含む）  
平成27年度：7回、平成28年度：12回、平成29年度：9回、平成30年度：9回
- ・区教育会議開催数  
平成27年度：3回、平成28年度：5回、平成29年度：9回、平成30年度：9回（意見交換会含む）
- ・全市共通で実施された「各区に共通する区政運営に関する事項」および「来庁者等に対する窓口サービス」にかかる格付け結果  
「来庁者等に対する窓口サービス」（星3つ～星なしの4段階評価）  
平成26年度：星2つ獲得(3.5点)、平成27年度：星2つ獲得(3.5点)、平成28年度：星2つ獲得(3.6点)、平成29年度：星2つ獲得(3.7点)、平成30年度：星2つ獲得(3.5点)

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・区長が特色ある施策・事業を実施するにあたり、地域課題を的確に把握することが求められています。
- ・区民の意見やニーズの把握に、より幅広い層への区民アンケートの実施や多様な相談機会を設ける必要があります。
- ・インターネット利用率は高く、デジタルツールによる情報収集が日常のものになりつつあります。内訳としてはパソコンの利用率がやや減少し、スマートフォンの利用率が高くなってきており、モバイルツールの利用が増加してきています。
- ・区民が情報を収集するためによく利用している媒体の割合としては広報紙が高く、次いでホームページとなっています。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・区政会議をはじめとする区民の意見を区の様々な取組（施策・事業・イベントなど）の中に反映していますが、区の特性や地域実情に応じた取組や区民への情報発信をさらに強化する必要があります。
- ・区民が情報を収集するための方法・ツールが多様化しており、情報発信のターゲットや手法を見極める必要があります。
- ・区民の視点で窓口対応や事業を展開できる組織の構築と人材の育成が必要です。
- ・職員一人ひとりの意識改革、能力の向上および職場の風土改革を図る必要があります。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

- ・区民アンケートにより区民の意見やニーズを把握するとともに、区政会議での意見・提案を事業に反映できましたが、今後も区の特性や地域実情に応じた取組みに努めてまいります。
- ・情報収集の手法が多様化している中で、さまざまな情報発信ツールを活用して情報発信しました。今年度は主な情報発信ツールである広報紙について、1か月全戸配布を実施し、個別配布の需要の掘り起こしを行うとともに、WEBツールとしてLINEを開始し、より一層の情報発信に努めました。来年度は広報紙について、年間を通じて全戸配布を実施し、より確実に情報が届くよう取り組みます。
- ・区民からの意見・評価を把握し改善につなげる取組みや職員の実務能力を向上させる取組みにより、区民にとってわかりやすく利用しやすい窓口対応に努め、大阪市の「来庁者等に対する窓口サービス」の格付け結果において、6年連続で「星2つ(民間の窓口を上回るレベル)」を獲得することができました。
- ・職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組み等により、職員一人ひとりの行政のプロとしての意識向上につなげることができたと考えます。

めざす成果及び戦略 5-1 【区民の意見やニーズに的確に対応する仕組みづくりと発信力の強化】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	区民の意見やニーズを的確に把握し、施策・事業に反映できている状態		区議会などを活用し、区における施策や事業について、企画・計画段階での意見、その成果にかかる評価に対してのご意見、表面化しにくいものも含めた多様な区民の意見やニーズを的確に把握し、施策・事業に反映します。また、区民が必要な区政に関する情報をきめ細やかに発信します。	
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	区政運営について区民の意見などを施策・事業に反映していると感じる区民の割合:2年度までに70%以上		—	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	区政運営について区民の意見などを施策・事業に反映していると感じる区民の割合:40.6%	37.3%	A	A
	A:順調 B:順調でない			
戦略の進捗状況	b	a:順調 b:順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
—				

具体的取組5-1-1 【区の広報事業】

		29決算額	11,616千円	30予算額	14,154千円	元予算額	16,106千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	<p>○区民の必要とする区政情報が、必要なツールで届くよう、情報発信を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙:月46,000部発行(11回)月66,000部発行(1回)</li> <li>・ホームページ:月平均30件</li> <li>・ツイッター:月平均250件</li> <li>・AR,YouTube動画:毎月配信</li> <li>・広報掲示板:月平均20件</li> <li>・ケーブルテレビでの情報発信:月平均8回</li> </ul>		<p>区政情報を必要とする区民が、必要なツールで情報を入手できていると感じる割合60%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 上記目標が40%未満であれば、事業を再構築します。</p>				
計画			前年度までの実績				
			<p>【29・30年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区広報紙の発行①広報紙「広報あべの」発行部数(45,500⇒46,000部)</li> <li>②新聞折込部数(35,490⇒34,140)③新聞未購読世帯への個別配付数(3,810⇒4,215)④世帯配付率(約74%⇒約74%)【30年4月号⇒31年3月号実績】</li> <li>・WEBツールの活用①区ホームページアクセス数(54,489)【31年3月実績】②ツイッターフォロワー数(3,509)【31年3月現在】③AR,YouTube動画毎月配信</li> <li>・広報掲示板ポスター掲示件数月平均件数(約20件⇒約29件)</li> </ul>				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		① (i)				
	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
自己評価	戦略に対する取組の有効性		—				
			ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区広報紙の発行①広報紙「広報あべの」発行部数(46,000(11回)66,000(1回)②新聞折込部数(34,140⇒32,235)③新聞未購読世帯への個別配付数(4,243⇒4,457)④世帯配付率(約74%⇒約69%)【31年4月号⇒2年3月号実績】</li> <li>・WEBツールの活用①区ホームページアクセス数(58,668)【2年3月実績】②ツイッターフォロワー数(3,973)【2年3月現在】③AR,YouTube動画毎月配信④LINE配信(2年2月から開始)</li> <li>・広報掲示板ポスター掲示件数月平均約33件【31年4月~2年3月実績】</li> </ul>		<p>必要な情報を入手できていると感じている割合は65歳以上が57.8%である一方、若年層が35.9%であり、全体としては30年度より上昇したものの依然として若年層の割合が低くなっています。</p>				
	プロセス指標の達成状況		② (i)				
	<p>区政情報を発信しているツールのいずれかで、必要な情報を入手できていると感じている区民の割合:50.5%</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
戦略に対する取組の有効性		ア					
		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組5-1-2

【区の広聴事業】

29決算額 1,708千円 30予算額 2,142千円 元予算額 2,142千円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	<p>○区民への説明責任を果たしていくとともに、いただいた意見を施策へ反映させることを目的として、区政に関する区民からの意見・アイデア・要望等を常時受け付けます。</p> <p>また、区の施策や事業などについての意見やニーズを把握し、区民の客観的な評価を得るなど、施策立案にかかる基礎データを収集するためにアンケートを実施します。</p> <p>・区民モニターアンケート調査の実施(年2回)</p>		<p>区役所が、様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると感じる区民の割合50%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>上記目標が30%未満であれば、事業を再構築します。</p>
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③: 撤退・再構築基準未達成</p>		
	戦略に対する取組の有効性		
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<p>・窓口対応等にかかる来庁者への調査(評価シート)の実施:2回(8月、2月)</p> <p>・「今月の目標」来庁者アンケートの実施:毎月</p> <p>・ご意見箱の設置:常時</p> <p>・区民モニターアンケート調査の実施:2回(9月、12月)</p>		<p>来庁者アンケートや区民モニターアンケート調査等により区の施策や事業などについての意見やニーズを把握する取組みを行いました。区役所が様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると感じる区民の割合は目標値である50%を下回り、44.4%となっています。</p>
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
<p>区役所が、様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると感じる区民の割合44.4%</p>		<p>② (i)</p> <p>取組みの実施にあたり、区役所が様々な機会を通じて区民の意見やニーズを把握していると区民が感じられるよう工夫を行っていく必要があります。「SNSを活用した区民の意見やニーズの把握」の取組実施に向けた検討を行い、多様な区民の意見やニーズの的確な把握に努めます。</p>	
戦略に対する取組の有効性		<p>ア: 有効であり、継続して推進</p> <p>イ: 有効でないため、取組を見直す</p> <p>—: プロセス指標未設定(未測定)</p>	



具体的取組5-1-3

【区政会議運営事業】

		29決算額	491千円	30予算額	1,014千円	元予算額	956千円
計画	当年度の取組内容	<p>○区政におけるさまざまな課題や区政に関する評価などについて意見を述べる仕組みである区政会議を運営します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会の開催:3回程度</li> <li>・各部会の開催:各2回程度</li> </ul> <p>・より活発な意見交換に向け区政会議運営上の課題把握のためのアンケートを区政会議委員に対して実施</p> <p>・区政会議における意見への対応状況(予算への反映状況を含む)について、区政会議において説明</p>					
	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている区政会議の委員の割合:76%以上</li> <li>・区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、適切なフィードバックが行われたと感じる区政会議の委員の割合:73%以上</li> </ul> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>上記目標が60%未満であれば、会議運営手法を再構築します。</p>					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①	(i)				
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない						
	②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない						
戦略に対する取組の有効性	—	<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>—:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
中期評価	当年度の取組実績	<p>・全体会及び各部会の開催:全体会3回(6/24、9/26、12/4)、部会各2回(7/29、7/30、7/31、8/21、8/22、8/26)</p> <p>・区政会議運営上の課題把握のためのアンケートを区政会議委員に対して実施しました。(9月)</p> <p>・区政会議における意見への対応状況について、予算反映状況も含めて明示し、区政会議(12月)において説明しました。</p>					
	プロセス指標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、十分に区役所や委員との間で意見交換が行われていると感じている区政会議の委員の割合:58.8%</li> <li>・区政会議において、各委員からの意見や要望、評価について、適切なフィードバックが行われたと感じる区政会議の委員の割合:82.4%</li> </ul>					
	①:目標達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった						
	②:目標未達成(i)取組は予定どおり実施(ii)取組を予定どおり実施しなかった						
戦略に対する取組の有効性	ア	<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>—:プロセス指標未設定(未測定)</p>					
		課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
		課題	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
		改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
		これまでのアンケート結果で、総じて「区役所側の説明が長く、意見交換をする時間が短い」との声が多かったことから、改善策を講じる必要があります。					
		「区役所側の説明が長く、意見交換をする時間が短い」という課題の改善取組として、12月の区政会議ではグループに分かれての意見交換を実施しました。来年度においても引き続き、活発な意見交換に向けた取組を検討・実施します。					

めざす成果及び戦略 5-2 【質の高いサービスの提供】

計画	めざす状態<概ね3~5年を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	区民ニーズに即応し、効果的・効率的に業務運営されている状態		利便性の高いサービスを提供できるよう、区民にとってわかりやすく利用しやすい窓口の実現に取り組みます。 また、改革を推進する職員づくりを進めていくため、職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組を進め、より区民から信頼される自律的な職員の育成と区民サービスの向上を進めます。	
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	効果的・効率的な業務運営に向け、区の実情や特性に応じて、区役所の取組が進められていることを知っている(進められていると思う)区民の割合:2年度までに70%以上		—	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	効果的・効率的な業務運営に向け、区の実情や特性に応じて、区役所の取組が進められていることを知っている区民の割合:71.6%	68.2%	A	A
	今後の対応方向	※有効性が「イ」の場合は必須		
戦略の進捗状況		a	—	
		a:順調 b:順調でない		

具体的取組5-2-1 【区民サービス向上】

		29決算額	-円	30予算額	-円	元予算額	-円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員の実務能力を向上させる取組を進めます。 ・職員力向上研修の実施:年1回</li> <li>○区民からの意見や評価を把握し改善につなげる取組を進めます。 ・窓口対応等にかかる来庁者への調査(評価シート)の実施:年2回 ・「今月の目標」来庁者アンケートの実施:月1回</li> <li>○職員間の情報共有の取組を進めます。 ・庁内情報誌「あべのいちばん」の発行:2ヶ月に1回</li> </ul>	①区役所を過去1年間に利用した区民のうち、案内サービスや窓口、電話などの対応が良いと感じた区民の割合80%以上 ②「区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果」において、☆☆(民間の窓口サービスの平均的なレベルを上回るレベル)以上を獲得【撤退・再構築基準】 上記目標①が60%未満または②が星2つ未満であれば、事業を再構築します。  前年度までの実績 30年度実績【29年度実績】 ・職員力向上研修の実施:年1回【年1回】 <講義型の研修>6コマ【6コマ】 <研修後実地研修+管理職研修>1日【1日】 ・窓口対応等にかかる来庁者への調査(評価シート)の実施:年2回【年2回】 ・「今月の目標」来庁者アンケートの実施:12回(月1回)【12回(月1回)】 ・「あべのいちばん」の発行:6回(2ヶ月に1回)【12回(月1回)】  プロセス(過程)指標 30年度達成状況【29年度達成状況】 ①区役所を過去1年間に利用した区民のうち、案内サービスや窓口、電話などの対応が良いと感じた区民の割合:81.11%【83.1%】 ②区役所来庁者等に対するサービスの格付け結果:☆☆(星2つ)を獲得【☆☆(星2つ)を獲得】					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	—				
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
戦略に対する取組の有効性		ア	—				

具体的取組5-2-2 【改革を推進する職員づくり】

		29決算額	- 円	30予算額	- 円	元予算額	- 円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	○職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組を進めます。 ・各課・担当の継続的な5S活動・改善活動の実施に対する支援 ・各階層別改善プログラムの実施: 通年 ○業務におけるPDCAサイクルの徹底 ・阿倍野区実施の事業報告「あべのレポート」の発行: 月1回	業務をすすめるにあたって、改善や5S等にチャレンジしている職員の割合80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	-					
振り返り	戦略に対する取組の有効性	-	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す -: プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
振り返り	○職員の気づきやチャレンジ意識を引き出す取組 ・区民サービス向上検討委員会(庶務担当係長)の開催: 6回 ・若手職員人材育成研修(新採1~4年目職員)の実施: 8回 ・「あべのレポート」の発行: 毎月分発行	-					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
振り返り	業務をすすめるにあたって、改善や5S等にチャレンジしている職員の割合81.4%	① (i)	-				
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	-					
振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す -: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組5-2-3 【職員のモチベーション向上】

		29決算額	- 円	30予算額	- 円	元予算額	- 円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	○コミュニケーションが取れている組織風土を醸成する取組を進めます。 ・職員表彰の実施: 年1回 ・オフサイトミーティングの実施: 年1回 ・職員意識アンケート調査の実施: 年1回	仕事にやりがいを感じている職員の割合80%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が60%未満であれば、事業を再構築します。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	-					
振り返り	戦略に対する取組の有効性	-	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す -: プロセス指標未設定(未測定)				
	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
振り返り	○コミュニケーションが取れている組織風土を醸成する取組 ・職員表彰の実施: 年1回 ・オフサイトミーティングの実施: 年1回 ・職員意識アンケート調査の実施: 年1回	-					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
振り返り	仕事にやりがいを感じている・ある程度感じている職員の割合: 80.1%	① (i)	-				
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	-					
振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す -: プロセス指標未設定(未測定)				